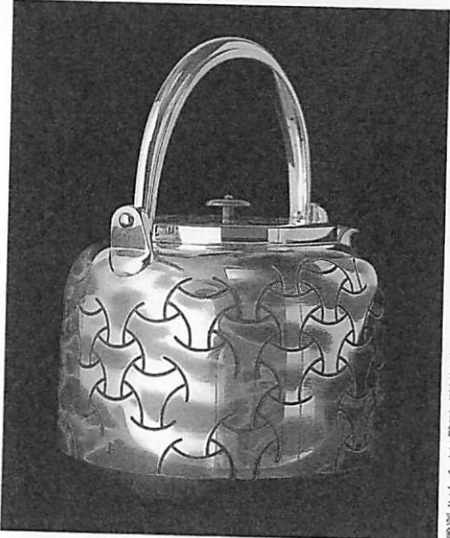
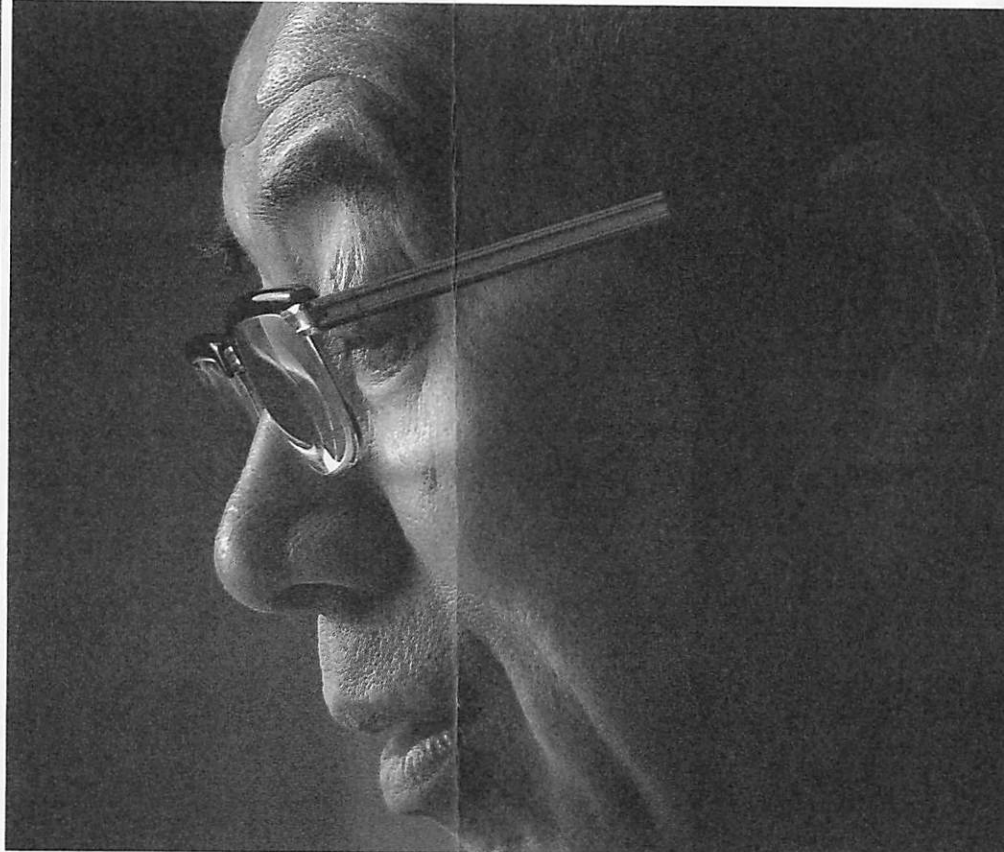


南鐘草花彫末広水指(フジ、アヤマ、ナンテン彫り) (部分)



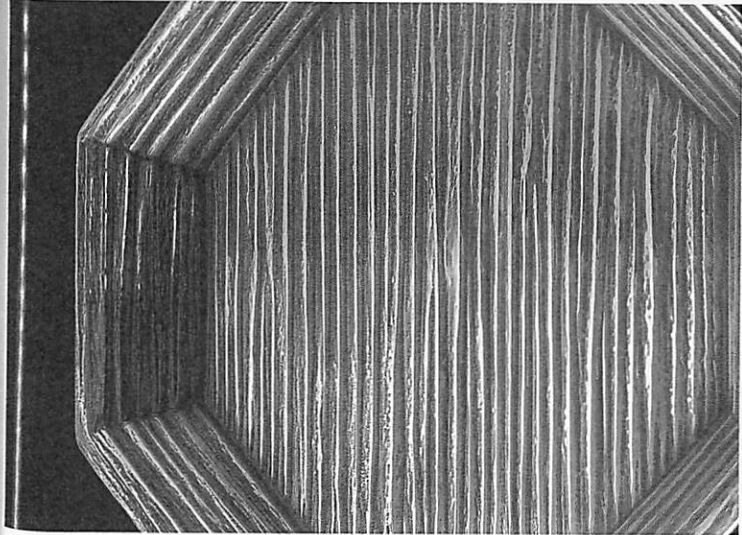
即中斎好 南鐘コマツナギ栗鐘

お茶の道具としての「用」には必ず「美」が加わっていないければなりません。金属を使い、「用の美」として使い易さとプレーンさを考慮して、贅肉をそぎ落したぎりぎりの美さを常に求めてきました。

金属は地味な素材のものであり、脇道具であって表立ったものではありません。

砂張りの花入に花一輪が生けられ、干菓子盆に四季折々の菓子が盛られた時、はじめて茶道具としての美しさが生き、冷く固い金属に命を吹き込んだという思いがしみじみします。

金属工芸は、材質本来の美しさ、線と面の美しさをだすことに尽きます。



南鐘折タメ八角盆 (部分)

自分が作っているものは「芸術品」とも「美術品」とも思っていないません。

お茶を嗜み、また楽しむための「用」があるお道具なのです。

私はそれを作る職人であり、プロフェッサーなのです。

